

Bear cubs letter

四国の
ツキノワグマ



ツキノワグマ

四国の

Bear cubs letter

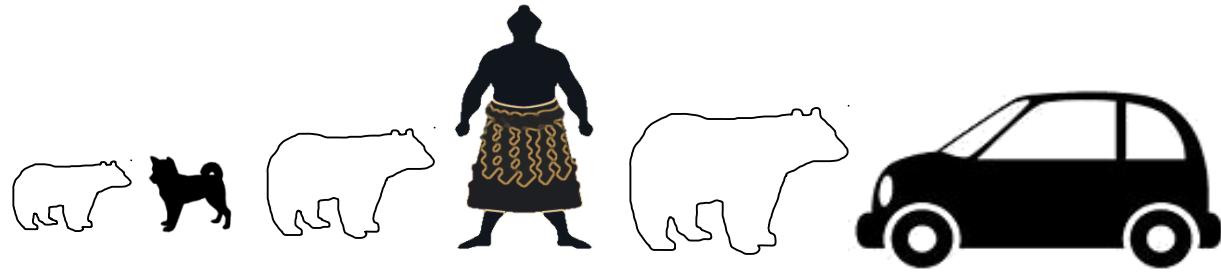
日本クマネットワーク学生部会
2019年1月 発行





－ 四国のクマ知っちゅう？－
読む前にクイズに答えてみよう！

Q1. あなたが思うツキノワグマはどんな大きさ？色を塗ってみよう！



Q2. ツキノワグマはどんなものを食べる？丸をつけてみよう！



Q2. あなたは四国のどこにクマが生息していると思う？選んでみよう！



Q3. 四国のクマは何頭くらい生息していると思う？

10頭未満 ・ 50頭未満 ・ 100頭未満 ・ 1000頭未満 ・ もっとたくさん！

答えは読んで確かめてね！

－はじめに－

Bear cubs letterをお手に取ってくださり、ありがとうございます！
四国には、日本にいる野生動物の中でも特に大きなツキノワグマが生息しています。しかし、生息環境の消失によって生息数がかなり減少し、現在絶滅に瀕している状況です。

そこで、この現状について知ってもらいたいと思い、クマの生態、四国のクマのたどった歴史、そして最近の取り組みについてまとめてみました。

このletterを通して、少しでも多くの人々がクマに興味を持ってくれたら、クマを守っていくにはどうしたらいいのか一緒に考えてくれる仲間が増えたら幸いです。

－目次－

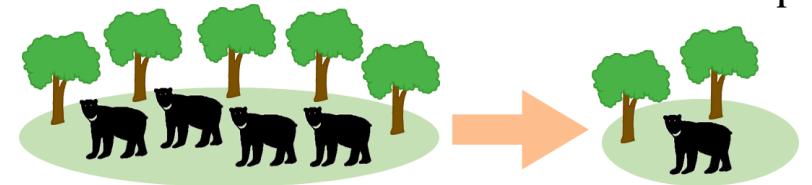
ツキノワグマってどんな動物？



… p.2-3

四国の森とクマ－過去から今－

… p. 4-5



四国のクマを守りたい！－最近の取り組みとその現状－

… p. 6-7



四国クマ調査に行ってきました！

… p. 8-15



日本クマネットワークの子グマたち－JBN学生部会－

… p. 16-19



ツキノワグマってどんな動物？

クマの1年の生活史をクマ美が紹介します！



「クマ美」
ツキノワグマを代表するロマンチスト



クマの爪痕



ササのフン



サクラの実のフン



朽ち木を壊した痕

朽ち木を壊すとアリや虫の幼虫がいたりするのよ。

春が来ました。
う〜んよく寝た。穴の外から新芽のいい匂い！ぼかぼかお日様の下でひなたぼっこは気持ちいいな。

夏が来ました。
春には柔らかかった葉っぱはもう固くなってきたけれど、そろそろイチゴの実が美味くなる頃ね。でも今日は暑いから木陰でお昼寝しましょ。

山菜や新芽
草本や木本の葉
前の年のドングリ
シカの死体

草本や木本の葉
子ジカ
サクラ類の果実
アリなどの昆虫
ハチやハチミツ

何も食べないし、
飲まないけど、
メスは子どもを
産むわ

ドングリ（ミズナラ・コナラ）
ブナやクリの実
ハチやハチミツ
ヤマブドウやミズキの果実

冬が来ました。
おなかいっぱい食べたら眠くなってきちゃった。外はなんだか寒いし、そろそろ穴に入って寝ようかな。今年はどうな夢を見れるかしら。

秋が来ました。
大好きなドングリやブナの実がここにもあそこにも！でもデザートはやっぱりヤマブドウだと思うのよ。



樹洞の冬眠穴

土穴や岩穴もよく使うわ。穴の中には落ち葉を敷き詰めてふわふわのベッドを作るの！



ドングリのフン

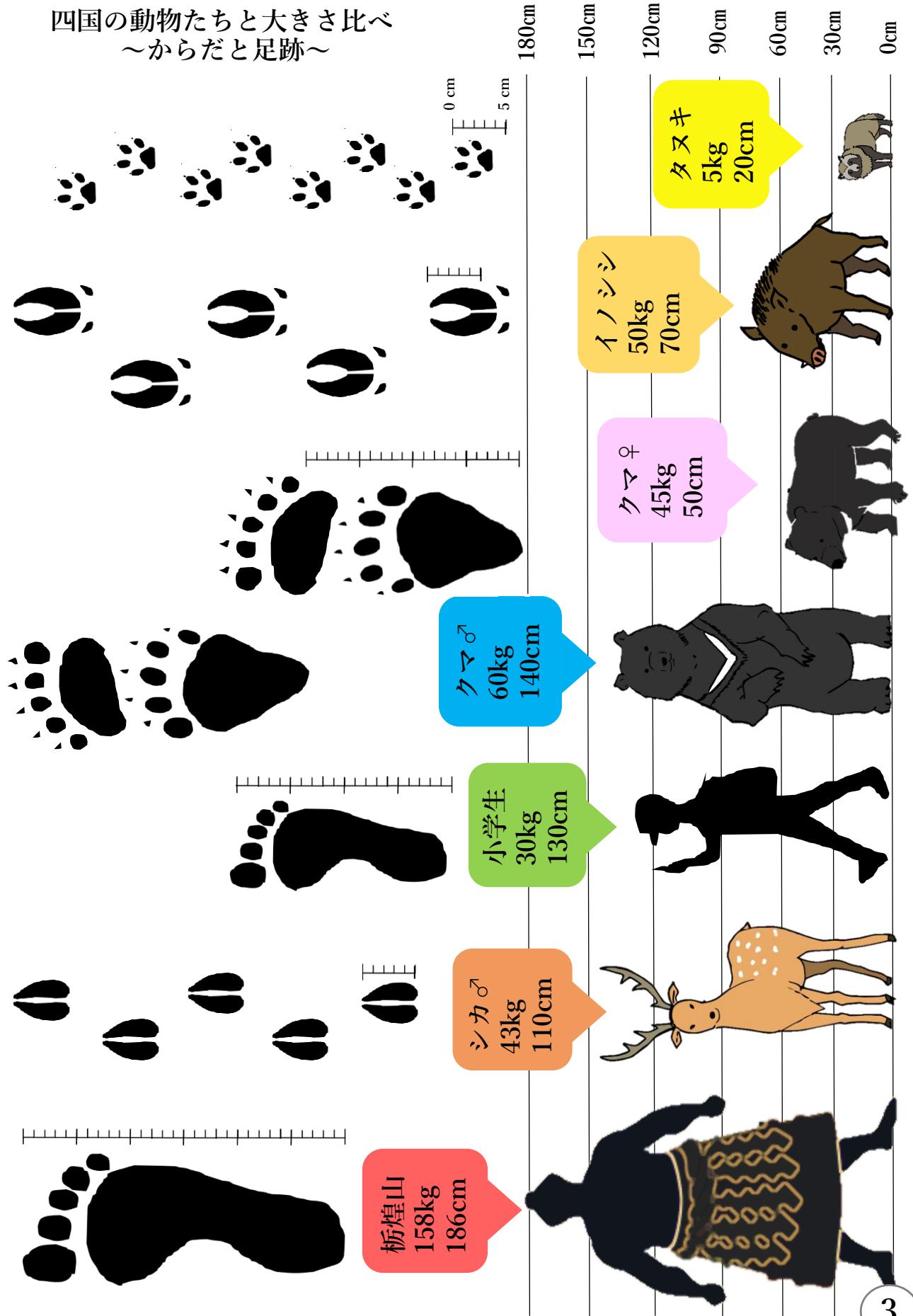
木の実には炭水化物や脂肪がたっぷり！厳しい冬を乗り越えるためにたくさん食べるのよ。



クマ棚

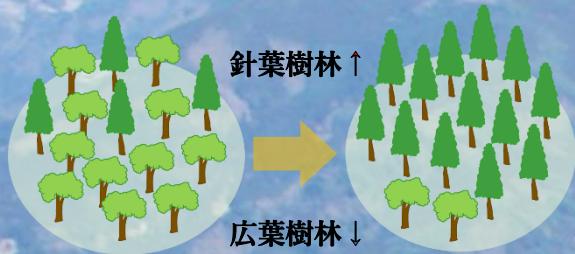
私たちは木登りが得意でよく木の上で食事をしたり寝たりするわ！夢中になると、枝をかじって折ってかき集めるからクマ棚を作ってしまうの。

四国の動物たちと大きさ比べ ～からだと足跡～



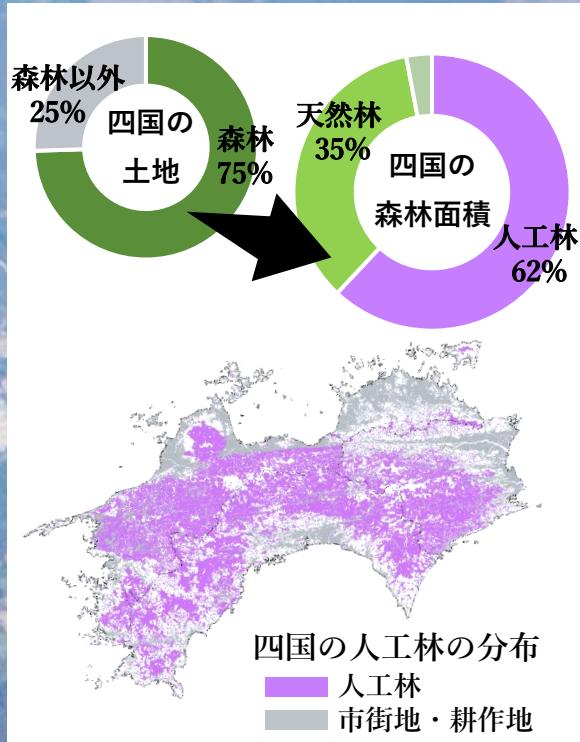
四国の森とクマー 過去から今

人工林の拡大



1970年
新植地面積がピーク

1930年代～
林業が盛んに
山奥まで人工林が
つくられた

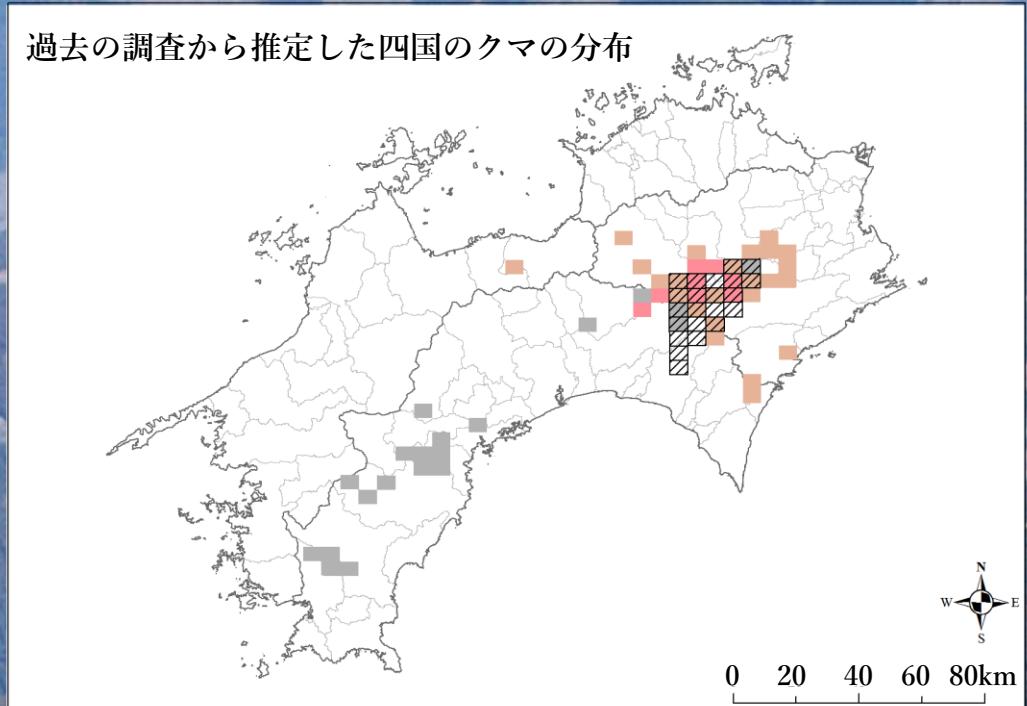


□ + □ 1978年
四国山地の東部と西部2か所

□ + □ 2003年
四国山地の東部のみ

▨ 2013年～2017年
東部の剣山周辺の約500km²
標高1000m以上の落葉広葉樹林

過去の調査から推定した四国のクマの分布



クマの分布の変化

～1970年代

1980年代

1990年代

2000年代～

クマの個体数とその歴史

1930年代～
林業への害獣としての捕獲奨励
1970年代は四国全域で60頭捕獲

材木となる樹木の皮をはいでしまう
→ クマはぎ

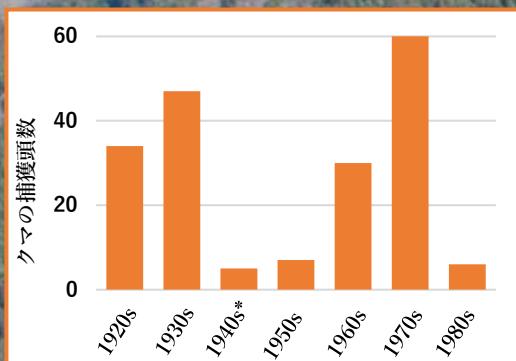


1972年
愛媛でのツキノワグマの最後の生息確認

1985年
四国西部でのツキノワグマの最後の生息確認

1986年
狩猟による捕獲禁止 (高知)

1987年
狩猟による捕獲禁止 (徳島)



*第二次世界大戦のためにデータ欠損

1991年
絶滅のおそれのある地域個体群として
レッドリストに掲載

1994年
四国全域で捕獲禁止

1996年
生息頭数50頭未満

1997年
繁殖の確認
→ 1～2年に一度の頻度

2000年前後
ツキノワグマの調査開始

2009年
鳥獣保護区の拡大

四国のクマが食べているもの
ブナ ミズナラ キイチゴ サクラ ヤマブドウ



調査で捕獲されたクマたち 痕跡 (クマ糞)
ゴンタ♂14歳 コナラ♀4歳 (2011年撮影時)



四国のクマを守りたい！ —最近の取り組みとその現状—

①クマの現状の把握

何頭いるの？
分布はどこまで？
なぜ増えないの？

- 生息中心域におけるモニタリング調査（林野庁・環境省）
 - 緑の回廊や国指定剣山山系鳥獣保護区とその周辺地域において継続的に生息状況を調査
- 四国クマプロジェクト（WWF・四国自然史）
 - ツキノワグマにGPS首輪を装着し、クマの行動を追跡
 - クマの重要な食物であるドングリの実りを調査
 - 追跡調査から得た位置情報や周辺環境の情報から、クマにとって適した環境をマッピング
- はしっこプロジェクト（WWF・林野庁・環境省・四国自然史）
 - 今までほとんど情報がなかった分布周辺を調査
 - 生息が確認されているエリアの周辺にカメラを設置
- 四国のツキノワグマを守れ！—50年後に100頭プロジェクト—（地球環境基金・NACS-J・JBN）
 - 生息が確認されているエリアのさらに周辺でカメラ調査

②四国の人々の意識

クマについて知ってる？
クマを守るって良いこと？

- 四国のツキノワグマを守れ！—50年後に100頭プロジェクト—（地球環境基金・NACS-J・JBN）
 - 四国に暮らす人々の価値や思いを把握
 - 人々の意識調査
 - クマの人の関係のひもとき
 - 利害関係者の把握
- どんな人がどのようにクマと関わっているのか聞きとる
かつての人とツキノワグマの関わりについて調査
当時の自然環境について調査

③クマを守る方法

何をすればいいの？
どんな効果があるの？

- 四国クマプロジェクト（WWF・四国自然史）
- 四国のツキノワグマを守れ！—50年後に100頭プロジェクト—（地球環境基金・NACS-J・JBN）
 - 捕獲の禁止や保護区の設置だけではクマが増えないのであれば、他の方法が必要になってくる
 - 給餌：餌場をつくり食べ物を与える（≠餌付け）
 - 補強：他の地域の個体を入れる
 - 生息域外保全：動物園で飼育して繁殖させる、遺伝子を保存
 - 生息環境の拡大：人工林を広葉樹林に変える
クマの好む環境間をつなぐ
- 国内外の保全の成功事例の情報を集める
四国のクマの保全に必要な方法や、システムについて考える

④情報を伝える

クマってどういう生物？
クマがいなくなると問題？
できることって何だろう？

- 四国のツキノワグマを守れ！—50年後に100頭プロジェクト—（地球環境基金・NACS-J・JBN）
 - シンポジウムの開催
 - HPやFacebookなどのメディアを通じた情報提供
 - 新聞やニュース、ラジオでの報道
 - JBNのニューズレターやNACS-Jの会報に掲載
 - 四国の動物園などでの四国のクマのグッズの販売
- ツキノワグマの生態などの基礎的な情報
四国のクマの現状や保全の必要性について
調査から得られた結果の発信



これまでの調査の結果…

- ・十数頭が確認され、**四国で50頭未満と推定**
- ・**剣山系周辺に分布**
- ・**標高900~1500mを利用**
- ・人工林よりも**落葉広葉樹林を好む**
- ・**道路は忌避**
- ・クマの好む環境は細かく分断

四国の住民の…

- ・**8割以上が、クマを怖いと思っている**
- ・**半数以上がクマに無関心！**
- ・**でも6割はクマが生息する世界で最も小さな島であることを貴重に感じている**

まだ具体的なことは実施できていないけれど…

- ・**どんな方法があるのかを、提言によって情報発信**
- ・**シンポジウムを開催**
- ・**専門の方々を呼び情報を共有**

- ・**JBNによるシンポジウムは、これまで3回開催**
- ・**約300人参加**



どうしてクマは落葉広葉樹林が好きなの？

落葉広葉樹林には、クマの食べ物がたくさんあるんだ。特に、冬眠に向けて大量に食べるドングリがなる木の存在はとっても重要。だからクマは落葉広葉樹林を生活の拠点にしてるんだよ。

利害関係者を把握するって？なぜ必要なの？

クマを守ると、地域の人たちの生活を変えることもある。恩恵を受ける人もいれば害がある人もいる、これが利害関係者。地域の人たちにとってクマの保全が価値あるものにするために、詳しく知ることは必要なんだ。

給餌をしてまで守らなきゃいけないのかな？

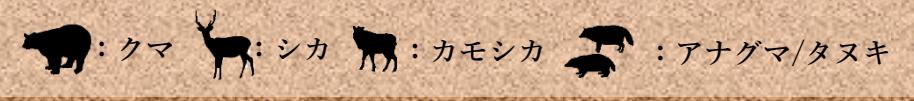
給餌も生育域外保全も、生息域内で保全を補うための緊急的な措置。その多くは、ただ生息域を守るだけでは絶滅してしまう種に対して使われているよ。それほど今の四国のクマは危機的な状況にあるってことだね。

どうすればもっとみんなが興味を持つのかな…？

シンポジウムを今後も続けることはもちろん、参加した人たちがどんどん広めてくれることでも、興味を持つ人を増やせるかもしれないね！

四国クマ調査に行ってきました！

JBNが主体で2017年から実施している四国クマ調査にJBN cubsのメンバーが参加しました。四国のクマに関心をもつ若者たちが調査を通じて何を感じたか、はりきって報告します！
 今回は調査エリアを大きく4つに分けました！各エリアの動物のマークは、cubsメンバーが山を歩いて感じた動物の気配を5段階で評価しました。みなさんもぜひ足を運んでみてください！

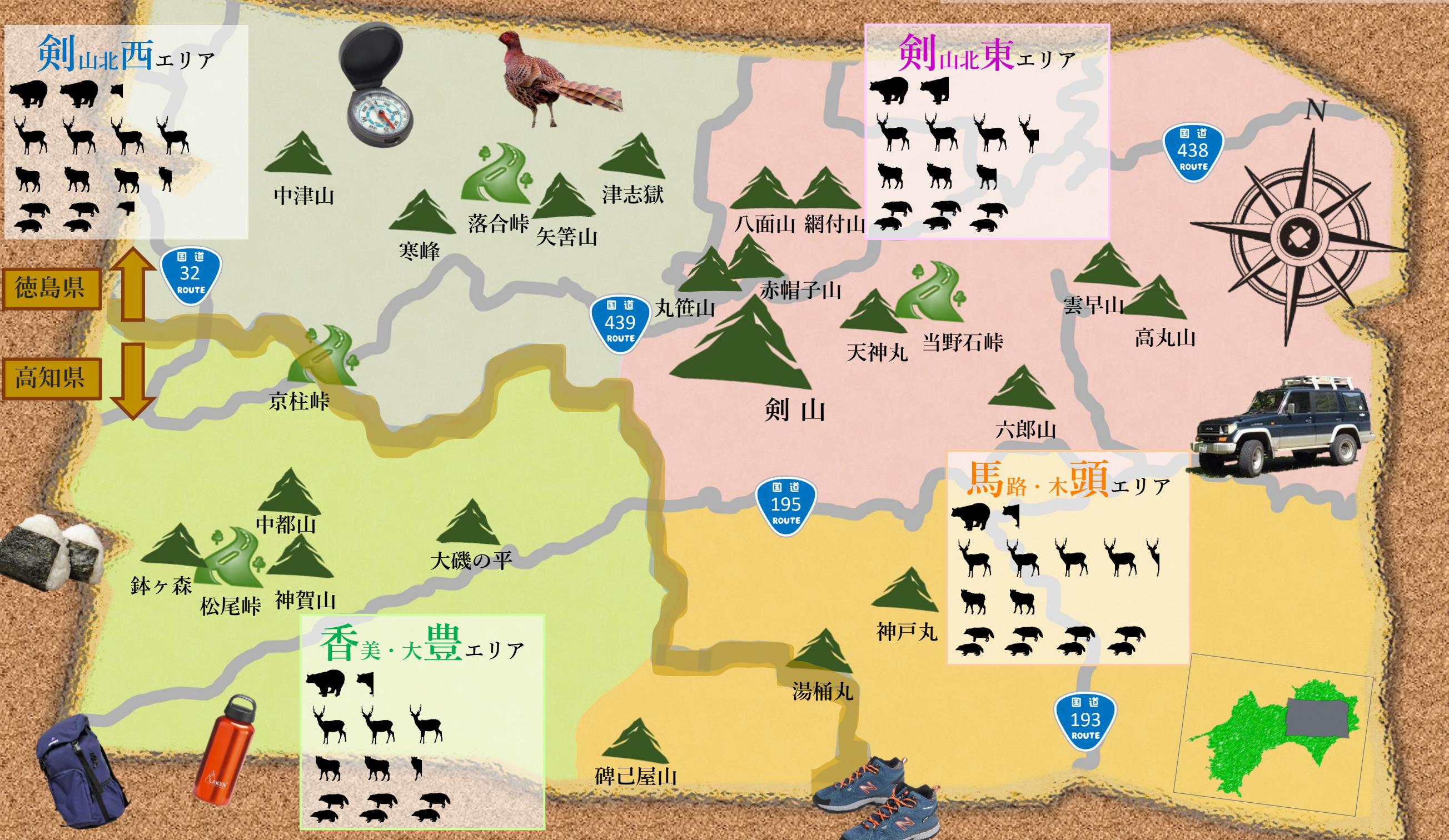


剣山北西エリア

剣山北東エリア

馬路・木頭エリア

香美・大豊エリア

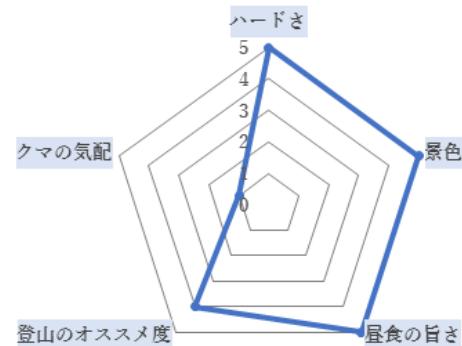


徳島県
高知県

mission 1. 剣山北西エリアを報告せよ!



寒峰



山の情報

徳島県三好市に位置し、標高は1605mである。四国百名山に選定されており、登山道の途中には福寿草群生地が存在する。頂上付近は草原で、樹木のない吹きさらしの寒々とした景観が名前の由来とされている。



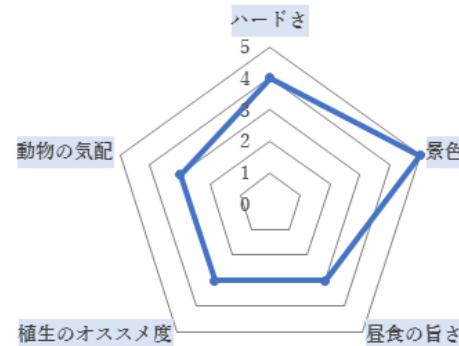
氏名 小田 有里子
所属 山口大学大学院 創成科学研究科

感想

四国の山を登ったのは初めてだったが、かなり高いところまで人工林になっている様子がよくわかった。ヒトの力の凄さを体感するとともに、クマの生息地がかなり限定されている現状も察した…。頂上からの景色は絶景だったが、少し物悲しくも感じられた。クマの痕跡は残念ながら発見できなかったが、シカの食痕がいたるところに！山口県にもシカはたくさんいるので「こいつらどこでもやさかしよな」と思わずにはいられなかった笑



矢筈山



山の情報

矢筈山は徳島県西部にある標高1848mの山である。標高1520mの落合峠を中心に、1600～1700m級の山岳が連なる祖谷山地にあり、その中でも100m以上高い標高は、徳島県第5位という高さを誇る。中央がM字型に窪む山容をしていることから、「矢筈山」と名付けられた。



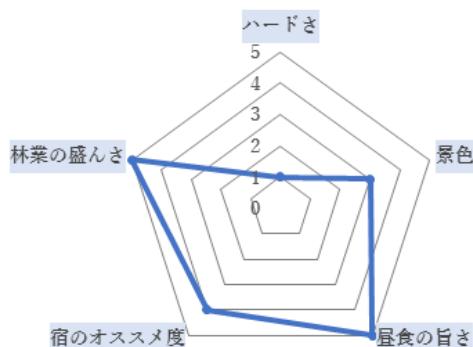
氏名 高山 楓
所属 東京農工大学 農学部

感想

道中は場所によっては急峻な場所もあり、足元が悪く歩きづらいうちが多かった。また夏の直射日光で体力が奪われ、ハードに感じた。調査地周辺ではクマが生息可能と考えられる場所が多かったが、クマの痕跡を発見することはできなかった。一方、道中ではカモシカの姿を見かけるなど、他の動物の痕跡は複数発見することができた。山歩きに慣れない状態での参加だったため、厳しさと同時に新鮮な楽しさを感じる調査であった。



中津山



山の情報

中津山(なかつさん)は、標高1447mの徳島県東部に位置する山で剣山国定公園に含まれる。山容は富士山に似ていると言われており、別名「中津富士」の名がつけられている。山頂にある「黄金池」と呼ばれる小さな池は、農業の神が祀られており、戦前は女人禁制であった。



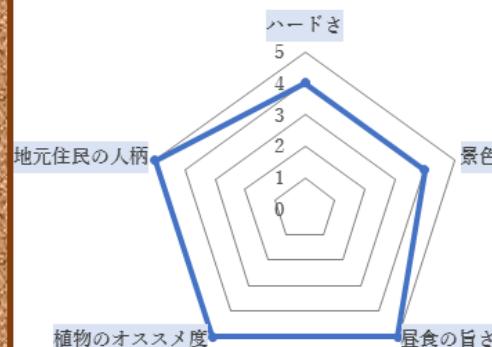
氏名 小山 彩由里
所属 淑徳大学 経営学部

感想

山の上部は落葉広葉樹が広がっており、ブナが多く自生していた。クマかもしれない爪痕は数か所で見つけたものの、かなり前のものと思われる。今はどこで何をしているのだろうか…。シカの痕跡は至るところで多数発見することが出来た。また四国の山々は、標高の高いところまで植林がされ、林業が盛んに行われている様子が見られた。一見、緑が多くて水が綺麗な環境であったものの、クマたち動物にとっては、広葉樹の範囲が少ない等、生きるには物足りない森林なのかもしれない…。人とクマ、それぞれの生活のあり方を改めて考えさせられる調査であった。



津志嶽



山の情報

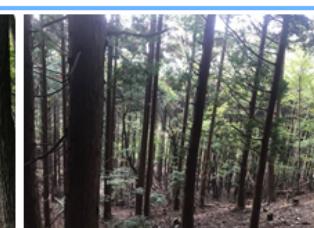
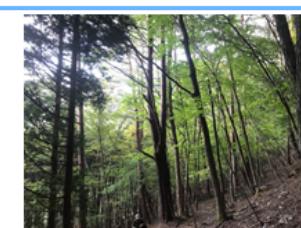
津志嶽は標高1493mで、剣山周辺の山々の中では比較的山頂までの道のりが長い、尾根まで頑張ればあとは平坦な部分も多いので、無理なく登れる山である。シャクナゲの群生地が有名で、春から初夏にかけての開花時期は特に、登山者を楽しませてくれる。登山道入り口～中腹では神社や祠がみられ、中腹～山頂では二次林や自然林が広がり、地域の文化と自然を同時に触れることができる。



氏名 竹腰 直紀
所属 東京農業大学大学院 林学専攻

感想

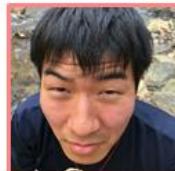
登山口から標高約1000mの尾根上まではスギ・ヒノキの人工林が続いており、登山道中には神社や祠が複数見られるなど、かつての人々がこの山をよく利用していたことがうかがえた。尾根上は、一部は人工林と思われるカラマツが立ち並んでいたが、大方は落葉広葉樹であった。途中、シャクナゲの群生地ではきれいな小川が流れており、そこでの昼食はとても心地よかった。今回、登山道の上のみではあるが、タヌキやアナグマの糞しか見られなかったのは、本州でクマがいる地域とは異なる部分であった。人為的影響や、長い時間軸で形作られた環境がクマの生息数にも少なからず影響しているように思われた。



mission2. 剣山北東エリアを報告せよ!



六郎山

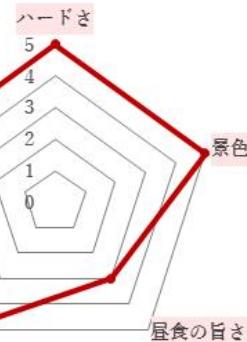


氏名
大石 涼平

所属
酪農学園大学
環境共生学類

感想

北海道の山しか調査したことのない私にとって、初めての道外での調査となった。歩いてみた感想は、四国の山はとても急な坂、細い道が多く、こんなところに本当にツキノワグマがいるのか?と感じた。しかしツキノワグマは見る事が出来なかったが、北海道では見ることが出来ないカモシカやアナグマを見ることができ、満足できた。ホテルや移動の道中には、熱いクマトークができたり、美味しい海鮮やお酒も飲むことができたまた参加したいと考えている。今回の調査ではツキノワグマの痕跡を発見できなかったので次回こそは発見できれば!と思う。



山の情報

六郎山は、標高1287mの徳島県に位置する山である。昔は、お椀やお盆をつくりながら移り住む人々が多く居たため、山の名前は「輪輪（ろくろ）」からきていると考えられている。



丸笹山・赤帽子山

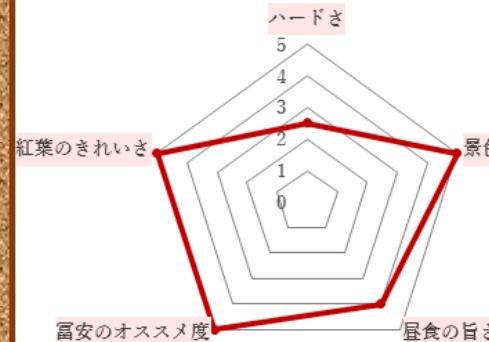


氏名
富安 洵平

所属
岐阜大学大学院
連合獣医学研究科
(帯広畜産大学配属)

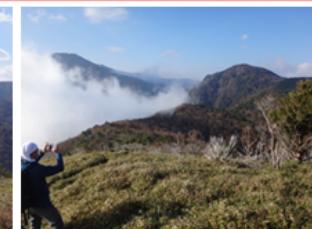
感想

初めての本州での、フィールド調査だったため行く前は非常に緊張していた。ルートは自分が運動不足なのもあって、登りは少ししんどかったが、基本的には山の稜線を歩いていくルートで景色も良く気持ちよく歩けた。南側には剣山も見え、紅葉がとても綺麗であった。シカの姿や痕跡はたくさん見ることができた。自分の回ったタイミングではツキノワグマの痕跡を確認する事がなかった。ただ実際に四国を訪れることによって、標高の高い位置まで針葉樹が植林されていることなどツキノワグマの置かれている環境を実感として持つことができ良かったと感じる。



山の情報

どちらも剣山に対し北に位置する。丸笹山は標高1712mの笹に覆われた丸みを帯びた山であり、四国百名山、花の百名山に指定されている。赤帽子山は標高1611mあり、丸笹山と同様丸みを帯びた形をしている。



八面山

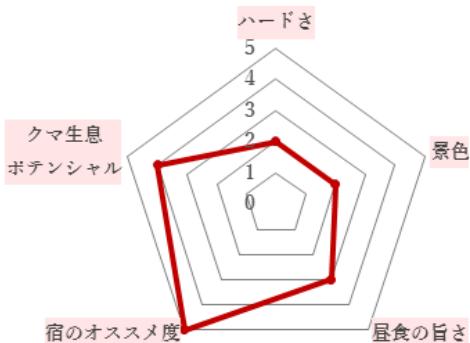


氏名
渡邊 英之

所属
東京農工大学
農学部

感想

私は、剣山北西に位置する八面山周辺を担当した。今回の活動は痕跡を探しながら、前もって仕掛けられていたセンサーカメラを回収するというものであった。良い天候で、正しい道から入山すれば決して険しくないコースであった。しかし、登山口が分からず、また荒天に見舞われたため険しい行程となった。その分、土砂降り中での昼食の素朴なおにぎりの味は格別であった。アケビなどの餌となる動植物や洞穴などのカバーも十分あるように感じた。一方で、クマの痕跡らしきものは全く発見できなかった。イノシシの食痕は観察できた。いずれクマの生息域が広がり、この地域でも見られるようになることを望む。



山の情報

剣山から10km弱北北東にすすんだところに、八面山(標高1312m)と網付山(標高1256m)が東西に並んでいる。東端の登山口からは比較的緩やかな稜線が続く。八面山は四国百名山の一つで頂上付近には小さな祠がある。尾根には広葉樹林が、北側には針葉樹林が広がっている。



六郎山

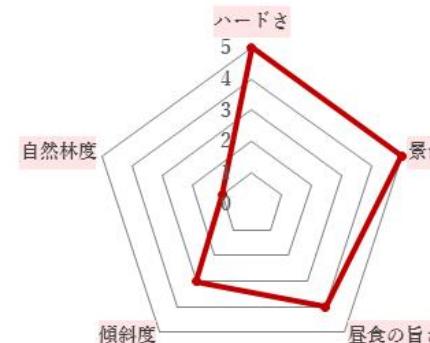


氏名
船戸 恵太

所属
株式会社
ファームエイジ

感想

感想としてはとにかく人工林が多く、森自体が暗い。また、登山道自体がかなり急傾斜でひたすら登りが続くため、行動食や水分は多めに持っていくことが重要である。普段、調査している北海道浦幌の山々と比較すると、果実類がかなり少なく、杉林に覆われている印象。



山の情報

六郎山は徳島県那賀町にある標高1287mの山であり、県立自然公園に指定されている。林業による整備が行われており、山頂直下までは杉林の人工林・山頂までが天然林という自然環境になっている。



mission 3. 香美・大豊/馬路・木頭エリアを報告せよ!



大磯の平

動物との遭遇率

宿のオススメ度

景色

昼食の目ざ

氏名 遠藤 優

所属 北海道大学 理学部

感想

一番印象に残ったのはとにかく傾斜が急だったということだ。それに加え針葉樹の落ち葉が斜面を覆い、少しでも足を掛け違えると滑落してしまうような環境だったため、気を抜かず調査した。調査地点へ向かう途中に木が切られた跡地に杭打っている現場を見た。四国の林業を間近で感じることができたと同時に、今後クマの個体数が増えた時、どのように共存していくべきか考えさせられた。四国はお酒が美味しいのでまた調査に行きたい。

山の情報

二か所廻ったが、一つは山名がなかったため一つだけ紹介する。大磯の平は高知県香美市に位置する標高1270mの山で、麓には物部川が流れている。山の中腹は針葉樹林が占め、標高が高くなると広葉樹林が広がる。登頂直前は岩場があり注意が必要。

京柱峠

人工林の多さ

狩猟のオススメ度

景色

昼食の目ざ

氏名 手塚 詩織

所属 東京農工大学 農学部

感想

私が行った地点では、ブナやミズナラの大木がある天然林でクマの居心地がよさそうな場所であったが、クマの痕跡はなかった。シカの食害により、下層植生がかなりダメージを受けていて驚いた。景色は本当に最高であった。見渡す限り、山、山、山! そんな景色の中で食べるお弁当はとってもおいしかった。今回の調査では同じ班の安藤さんから、「地域の方々とクマ」という四国のクマのいつもの面での現状をたくさん教わり、人とクマの関わりの重要性を感じた。

山の情報

1日目は標高が1123mの京柱峠周辺の地点に行き、2日目は1427m高板山の周辺の地点に行った。京柱峠の名は、峠を越えるのが京に登るほどの難所であったことからきている。高板山には多種多様なツツジが群生し、シロヤシオの紅葉が美しい。人工林が多く、林道に至る所に張り巡らされていた。

中都山

動物の気配

山のオススメ度

景色

昼食の目ざ

氏名 津田 涼夏

所属 酪農学園大学 農食環境学群

感想

山は広葉樹が広がっており、ブナ林が多かった。クマの痕跡はなかったがシカ3頭の目撃があった。お昼ご飯は宿で作って頂いたお弁当をアカショウビンの鳴き声を聞きながら食べた。とても美味しかった!! 景色も良く天候にも恵まれていた。だが、林道の工事が多く思うように動けなかった…次回こそは…。今回の山は普段登っている北海道の山より斜面が急で滑った。しかし、異なる環境の中で楽しく何事も行えた。

山の情報

中都山は、標高1440mの高知県香美市の山である。山頂には、吾むした石の天保時代の祠(ほこら)がある。祠には天保七年と刻まれており、180年以上の歴史を感じさせる。山頂近くの尾根には、高板山や白髪山、三嶺などの山々を眺望することができる。

稗己屋山

林業の繁栄度

温泉のオススメ度

景色

昼食の目ざ

氏名 栃木 香帆子

所属 東京農工大学 農学府

感想

尾根までの道は人工林が多く、中には樹皮剥ぎがされている木もあった。クマにされたものなのだろうか? 他にはクマの痕跡は見つけられず、ブナは点在していたものの、あまりクマが好む環境ではないように思えた。基本的に藪っぽく倒木が多かったため、かきわけたり踏みだりくぐり抜けたりと歩きづらかった。頂上は藪に囲まれ周囲の景色は見えなかったが、途中ぼつりと木が切られて植樹されている場所があり、そこから対岸の山が一望出来て開放感があった。馬路村にわく馬路温泉は、肌がつるつるになるのが特徴的で気持ちよかった。馬路村には林業鉄道跡もあり、かつての林業の繁栄の歴史を感じられた。

山の情報

稗己屋山は、高知県の東部に位置する標高1228mの山で、江戸時代にお留め山として一般の人が入ることを禁止されていた山である。木工品を加工、製造する職人たちがかつてこの山で稗(ひえ)というイネ科の植物を栽培していたという話から、稗の小屋という意味で、「稗己屋山(ひえごやま)」と名付けられている。

湯桶丸

クマの気配

登山オススメ度

景色

昼食の目ざ

氏名 安藤 喬平

所属 認定NPO法人 四国自然史科学研究センター

感想

登山等登り口までの林道は荒れており、登山口は斜面崩壊のため見つけにくい。馬路・那賀町エリアはシカの食害により下層植生が壊滅的な状態であるが、湯桶丸西側の尾根には、珍しく笹藪が残っていた。歩いた尾根には落葉広葉樹林が残り、ブナの大径木も僅かに散在していたが、少し標高を下げるとスギ・ヒノキの人工林に埋め尽くされていた。不思議なことに、今回の調査中にはクマの秋季の重要な食物であるミズナラの木を一本も見ることがなかった。調査地点周辺では、過去にクマと思われる動物の目撃証言が寄せられていたため期待していたが、残念ながら今回の調査ではクマを確認することは出来なかった。

山の情報

湯桶丸(ゆとうまる)は徳島県南部、那賀川上流南川の中央部に位置する標高1372mの山である。山のほとんどはスギの人工林に置き換えられたが、頂上には天然林が残っており、僅かではあるが切り残された大木も見られる。山頂からは高知県と徳島県の県境に位置する基吉森(標高1423m)などの山々が望める。

日本クマネットワークの子グマたち —JBN学生部会—



日本クマネットワーク (Japan Bear Network) は、日本における人間とクマ類との共存をはかるために作られたNGO団体です。

そんなJBNには、元気いっぱいな子グマたち (cubs) が独自の活動を行っています。JBN学生部会は、学生を中心とした若手のJBN会員の交流、情報交換、若さを生かした活動が出来る場を目指して、2006年にJBNの下部組織として結成されました。

現在、JBN学生部会には全国各地から60名を超える会員がおり、JBN全会員の約6分の1を占めています。



学生交流したり…



2017年学生部会イベントin北海道
「ヒヤリハットから学ぶ！フィールド調査の安全対策」

北海道大学
酪農学園大学
帯広畜産大学



北海道地区

学生主体のイベントを開いたり…



岩手大学
仙台コミュニケーションアート専門学校



2018年学生部会イベントin秋田
「これからのクマの話をしよう～みんなで考えるクマ問題～」



学祭でクマトランキットを展示

トランキットを使って普及啓発したり…

石川県立大学
新潟大学
信州大学
岐阜大学



東北地区



東京農工大学
東京農業大学
日本獣医生命科学大学
淑徳大学
東京外国語大学
東京都市大学



これまで製作したJBNオリジナルグッズ

山口大学

北陸・東海地区

関東地区

関西地区



2018年学生部会イベントin徳島
「森に住む隣人、四国のツキノワグマについて知ろう」



クマの勉強会 (クマゼミ) を開いたり…



JBNオリジナルグッズを製作して販売したり…

※学校名は2018年時点での主な会員の所属先を表しています

JBN学生部会の四国クマの取り組み

1 イベントを開きました！

2018年1月に徳島にて日本自然保護協会（NACS-J）と共催で「森に住む隣人、四国のツキノワグマについて知ろう」というイベントを開催しました！（チラシ参照）参加者30名でこじんまりとした雰囲気の中、四国のクマの未来について膝を交えて語り合いました。

また、2018年3月に高知にて四国青年NGOのHOPEが主催する合宿イベント「四国ギャザリング」にてクマのワークショップを開きました。こちらの参加者はなんと90名の四国の大学生たち！若い力をどのように四国のクマの保全に生かせるか…難しい課題としっかり向き合いました。



1月イベントのチラシ

報告レポ！

こんにちは！普段東北に引きこもってクマを追いかけてる系大学生の久門です。
 2018年の春、高知県で開催された第22回四国ギャザリングさんの一幕でNACS-Jの松井さんと一緒に四国のツキノワグマの現状をお伝えし、どんなことが自分で出来るのかについて話し合ってもらったワークショップを行いました。
 講演したり、四国の学生さんと関わって強く感じたのは、四国のクマの話が四国の学生さんがもっと携わって一緒に考えていくことが、とても重要だということです。今回の合宿は四国青年環境系合宿ということで、環境や森林、ニホンジカに興味のある学生さんは何人もいらっしゃいましたが、四国のクマがいなくなってしまうかもしれない状況にあることを知らない方がほとんどでした。このことを知ってくれる学生が増えて、これからの四国とクマのことを考えてくれる仲間が増えるとよいなと思いました。



2 グッズで普及啓発しています！

四国クマグッズ

JBN学生部会では四国のツキノワグマをモデルにしたグッズを作成・販売し、四国のクマ事情を様々な方に知っていただく取り組みをしています！

なかでも、クリアファイルは裏に四国のクマの現状をまとめたコーナーがあり読み応え抜群です！

グッズから四国クマのことを広めてみませんか？

<四国内のグッズ販売場所>

- 愛媛県西条自然学校
- 高知県横倉山自然の森博物館
- 愛媛県立とべ動物園
- 愛媛県面河山岳博物館

または…
 メールでのご購入も受け付けております！
jbn-goods@japanbear.org
 担当：JBNグッズ係

※送料は自己負担になります



クリアファイル（左）
 付箋（右）
 1つ200円で好評販売中！

オリジナルグッズ

四国グッズ以外にも、ヒグマやツキノワグマをモデルにしたJBNオリジナルグッズを作成・販売しています！

グッズはクリアファイル全4種、手ぬぐい、付箋、ステッカー、マグネットなどさまざま。売り上げは学生部会の活動費用になります。ぜひご支援をよろしくお願いいたします。（お問い合わせは上記メールアドレスまで）

クリアファイル



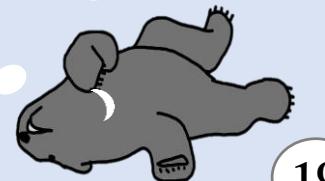
ステッカー



手ぬぐい



マグネットクリップ



編集後記



Bear cubs letterを最後までお読みいただきありがとうございます。

四国でのクマのシンポジウムが決まった時、いつもと違う企画をしてみたい、と思いこの冊子の製作に至りました。JBN学生部会がニュースレターを作るのは初めての試みであり、製作は想像以上に大変な作業になりました。しかしながら、短い期間にも関わらず本当にたくさんの方に協力していただき、なんとか完成させることができました。協力してくださった方々には、この場で深く御礼申し上げます。

JBNで四国のプロジェクトが始まってから、多くのcubsメンバーが四国のクマと関わってきました。ここでは、学生が四国のクマのことをどのような目線で見、どのようなことを思っているのかを感じていただければ幸いです。そして、四国のクマのことを少しでも多くの方々に知ってほしい、という私たち若者の熱意を感じ取っていただければ嬉しく思います。クマという日本で一番大きな哺乳類が四国でひっそりと消えようとしている…そんな悲劇が起こらないように、JBN学生部会は私たちができることをこれからも一步一步進んでいきたいと思えます。

今後もJBN学生部会一同をどうぞよろしくお願いいたします。

JBN学生部会代表 稲垣亜希乃

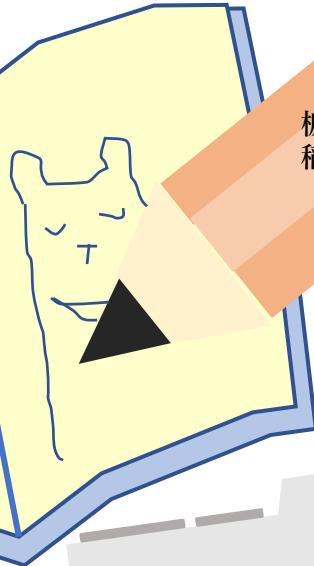
イラスト

近藤麻美
栃木香帆子
稲垣亜希乃



編集

安藤喬平
伊藤泰幹
稲垣亜希乃
遠藤優
小山彩由里
勝島日向子
加藤亜友美
栃木香帆子
長沼知子



写真提供

四国森林管理局
NACS-J
四国自然史科学研究センター
JBN学生部会

総制作時間
約500時間



～とある剣山系でのおはなし～

クマ男  剣山系に生息する体格大きいけど、気は小さめな男の子
クマ子のことが気になってる。

クマ子  同じく剣山系に生息する活発系女子
タイプは自分より頭のいいクマ。

 ねえねえ、最近なにやら僕たちの話を人間がしていたらしいんだけど知ってる？

知ってるわよ。いろんな場所から来た人間が何やらここら辺に住む人間たちと話してたらしいじゃない。夜はお酒を飲んで盛り上がっていたらしいわ。 

 さすがクマ子。詳しいね。そこで僕らの生息数が少なくなってるってことはあんまり知られてなかったらしいんだよね。

それはあなた、知らないことがあるのは当たり前じゃない。あなたもヒトの生息数が少なくなってるってこと知らないでしょ？ 

 えっ僕たちだけじゃなくて、ヒトもそうなんだ！

そうみたいよ。とにかくみんな私たちが置かれている状況を勉強してくれて、これからどうしたら良いか考えてみてくれたみたい。 

 そっか。もっと僕らのことを知ってくれる若者が増えてくれたらいいね。

そうね。ここいらではシカが増えすぎて問題になっているようだけど、シカもクマもヒトも四国に住んでいる仲間として、これから一緒に生きていける道があるといいわね。 

 そうだね。僕らもクマ若者代表として、生息数が少なくなってるらしいヒト達に何かしてあげられるか考えたほうがいいかなあ。

そうかもしれないわね。あんたも少しは賢くなったんじゃない？ 

 やった！もっとクマ子に喜んでもらえるように賢くなるよ！

(この発言がすでにあほっぽいよね…) まああんまり期待しないでおくわ。 

クマ子の心の内も知らず、クマ男は新たに決意を固めたのでした。きっとクマの方でもヒトとの共生について話し合われていることでしょう。